

4. 社会情勢、都心構造の変化の整理

(1) 社会情勢の変化

人口減少、少子高齢化が招く社会経済全般への影響

我が国は、出生率の低下や団塊の世代を頂点とする特異な人口構造により、諸外国に類を見ない速さで少子化、高齢化が進行しており、総人口についても、既に、減少過程へと移行しています。

人口減少・少子高齢社会の到来は、消費の縮小や労働力の不足による経済活力の低下を招くとともに、子育てや社会保障制度のあり方など、社会経済全般にわたって、今後大きな影響を及ぼすと懸念されています。

こうした問題を社会全体の課題として受け止め、良好な住環境・就労環境づくり、ユニバーサル社会や男女共同参画社会の形成などの総合的な政策の推進により、安心して子どもを産み育てられ、だれもが生き生きと暮らすことができる環境の整備が必要です。

また、教育環境の充実や青少年の育成などを通して、創造性に富んだ心豊かな人づくりを進め、都市の活力を維持発展させていくことが重要な課題となります。

経済・文化・学術活動におけるグローバル化への対応

21世紀は、情報技術の進歩や移動・通信手段の発達により、経済・文化・学術活動など多くの分野において、「人、もの、資本、情報」が国境を越えて活発に行き交う大交流時代と言われています。

こうした中、経済活動においては、世界同時不況以降、潜在的な成長力の高い中国やインドの存在感が高まるとともに、低コスト化・効率化に向けた国際分業や生産拠点の最適地化、さらには世界的な技術開発競争がこれまで以上に加速しています。特に、中国の経済成長は著しく、安価な労働力による「世界の生産工場」から、所得水準の向上による巨大消費大国へと変貌し、我が国の企業にとっても、生産体制や販売戦略の再構築が求められています。

一方、文化や学術活動における国境を越えた交流は、学問や芸術面におけるレベルアップはもちろんのこと、異国文化の理解や国際平和にもつながっています。

今後、本市においても、こうした経済・文化・学術活動におけるグローバル化への対応がますます重要となります。

地球環境問題への取り組み

大量生産、大量消費、大量廃棄を前提としたこれまでの社会は、地球温暖化や異常気象、エネルギー問題など地球規模での深刻な環境問題を引き起こしています。また、ごみの不法投棄や土壌汚染、水質汚濁なども、将来に向けて解決しなければならない大きな課題となっています。

21世紀は「環境の世紀」と言われ、京都議定書などの地球規模での取り組みや、市民・地方自治体レベルでの温暖化対策、さらには、リサイクルの推進、生物多様性の保全など、低炭素社会や循環型社会、自然共生社会の構築を目指し、国や地域間の協力・連携を図っていく必要があります。

ます。

また、市民一人一人が環境への意識を高め、日々の暮らしの中で環境問題に取り組んでいくことがますます重要になります。

安全・安心社会の構築

近年、食の安全性に対する不安や、異常気象などの影響による世界的な食糧不足などの問題が深刻化し、安全な食料・食品の安定供給に向けた対策が必要となるとともに、「人」や「もの」の移動の高速化、広域化に伴い、致死率の高い感染症に対するまん延防止体制の確立が急務となります。

また、国際的なテロの脅威が増す一方、国内においても悪質・巧妙化する凶悪犯罪が増加しており、防犯体制の強化や違法薬物に対する啓発活動など治安に向けての取り組みが必要です。

さらに、地震や津波、局地的集中豪雨などの自然災害が発生しており、本市においても、今後予想される東海地震などに備えた総合的防災力の向上と危機管理体制の構築が必要となります。

(2) 都心構造の変化

都心地区での大規模商業施設の撤退、郊外への商業施設進出による商業環境の変化

市全体としての商業環境については、商店数の減少傾向が続いており、商品販売額についても減少傾向でしたが、最近では回復の兆しが見られます。

一方、市中心部4地区（中央地区、東地区、北地区、駅南地区）では、大規模商業施設の撤退と郊外の進出により、中心市街地の商業活力低下が問題となっています。



〔市中心部4地区の売り場面積推移〕



※中心部4地区：中央地区、東地区、北地区、駅南地区
(資料：商業統計調査)

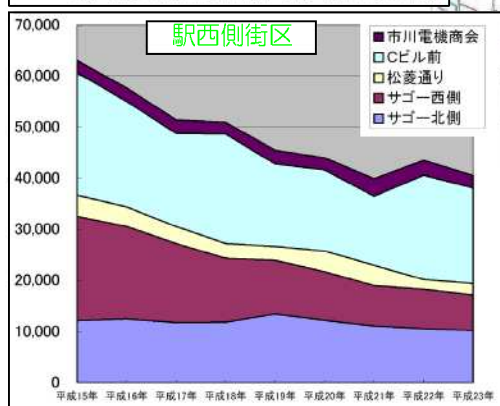
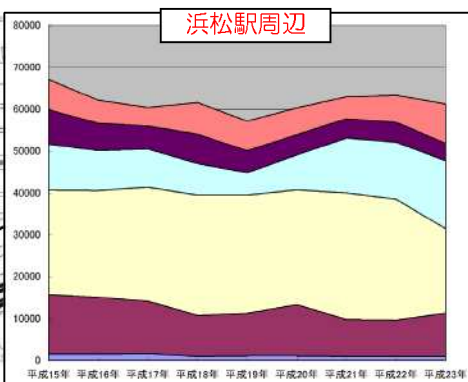
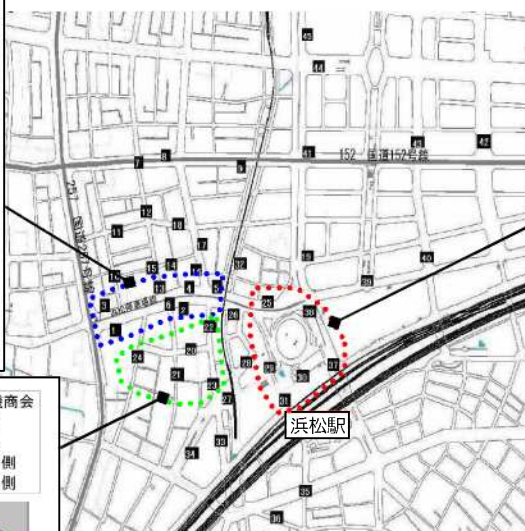
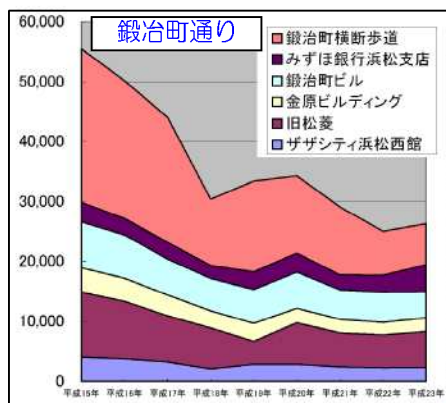
商業施設の分布状況



歩行者交通量の減少と商業集積地区のにぎわいの低下

浜松駅周辺の歩行者交通量は、大きな変化がない状況です。

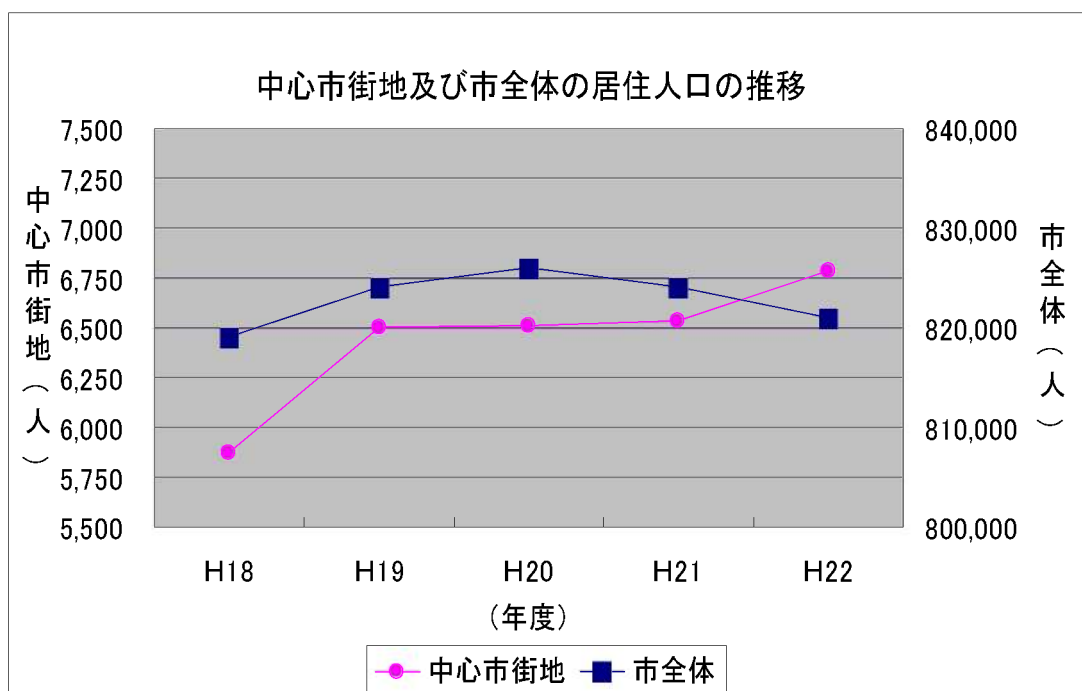
一方、浜松駅の西側に位置する鍛冶町通りなどの商業集積地区では、特に休日での歩行者交通量減少が著しく、歩行者回遊の広がりが減少していることがわかり、都心でのにぎわいの低下を示していると考えられます。



出典：浜松市中心市街地歩行量調査
・調査曜日=休日 ・調査時間=10：00～20：00
・各調査地点の積み上げグラフ

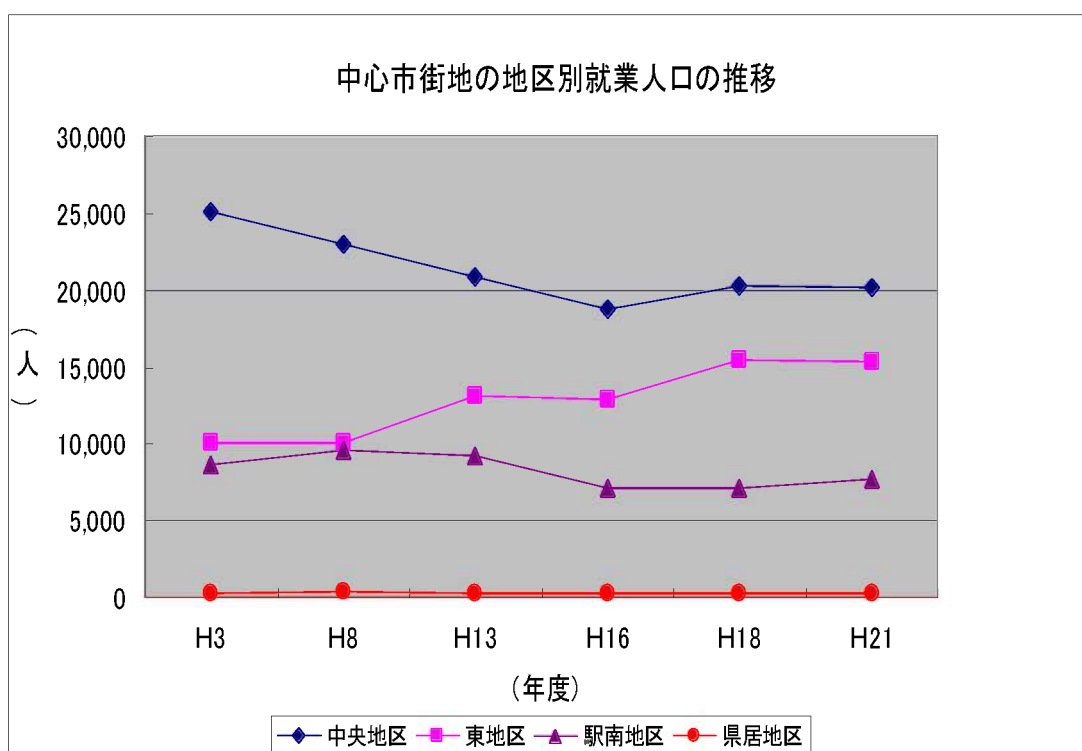
4. 社会情勢、都心構造の変化の整理

居住人口については、本市全体が減少する中で、中心市街地は、東地区での土地区画整理事業や市街地再開発事業などにより都市型居住施設の整備が進み、近年は横ばい傾向から増加しています。



基本構想

就業人口については、東地区のシビックコア地区へ司法・行政機能の集約が進展したことにより東地区が増加し、これに同調して他地区も減少傾向が止まり、一定レベルを維持しています。



駅前広場及び周辺施設へのアクセス時の送迎車両の輻輳

北口の送迎レーンにおいては、駅利用の送迎に加え、周辺商業施設へ訪れる際の送迎や待ち合わせ利用が増えたことにより夕方や週末のピーク時には、滞留が発生しています。

また、南口の送迎レーンは、規模が小さく、送迎車両が砂山菅原線に集中することに加え、同線沿線の商業施設からの退店車両、荷捌き車両、そして大型バス（観光バス、大学スクールバス等）及びタクシーと合流するため、著しい混雑が発生しています。

さらに、車道幅に余裕がある砂山 17 号線の路肩では、路上送迎が発生しているため、南口広場全体に車両が滞留している状況を増幅させています。

アンケートでは、北口・南口ともに送迎レーンの混雑や周辺の道路混雑が「改善を要する点」として多く挙げられています。

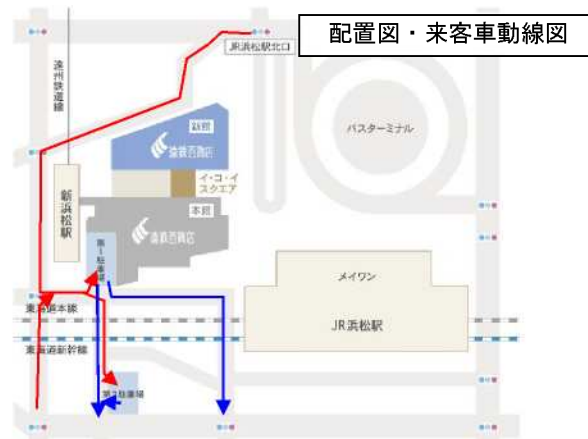


商業施設へのアクセス車両集中による道路混雑増幅の可能性

平成 23 年 11 月 9 日オープンの遠鉄百貨店新館は、来客駐車場が百貨店本館と共有になっていることから、今後、大売り出し（セール）やソラモでのイベント開催時には、新浜松駅周辺から砂山菅原線、南口駅前広場、駅南大通り（飯田鴨江線）にかけての道路混雑増幅の可能性を有しています。

なお、このような人・一般車の増加による混雑への対応としては、都心内駐車場への来客の分散誘導、バス・電車の P & R ^{パークライド} 利用の促進等があり、混雑緩和について高い効果を得ることが可能と考えています。

また、これらにより、一極集中の来客を都心内に広く分散させることができ、都心全体のにぎわい創出を図ることが可能と考えています。



自転車走行のルールづくりと走行環境の向上

自転車は、幅広い年齢層の方々が、通勤・通学・買物・レジャーなど身近な交通手段として、また、健康志向の高まりや地球環境負荷低減など市民意識の変化により、近年、急速に増加しています。しかしながら、本市の自転車交通事故件数は、事故全体の約17%を占めており、自転車利用環境の整備が急務となっています。

このようなことから、地球規模の課題への対応、市民の健康増進への寄与、無公害で健康的な乗り物としての利用促進と共に都市内交通の手段として有能な自転車の利活用に着目した整備を計画的に進めるための基本方針、及び自転車走行空間等の整備計画を策定しています。

この基本方針等により、自転車の位置付けの明確化、歩行者や自動車と共存した自転車ネットワークの構築、他の交通手段と連携した交通体系の実現等を進めます。

特に、都心においては、歩行者との錯綜緩和として、歩行者との共存若しくは分離を可能とする自転車走行のルールづくり、走行レーン及び駐輪場の整備など広場内外の交通環境の向上が必要となっています。



5. 駅前広場の課題整理

(1) 駅前広場における現況の問題点

社会情勢、都心構造の変化を踏まえ、また駅前広場の現況踏査、浜松駅周辺改良基本構想の策定に関する市民アンケート、浜松駅南地下駐車場の改良に関する市民アンケート、利用状況調査アンケート、来街者調査アンケート、浜松駅南地下駐車場利用実態調査及び交通量調査を行った上で、駅前広場における現況の問題点について「北口及び南口の駅前広場を一体的」に捉え、次ページ以降に示します。